

第 6 学 年 体 育 科 学 習 指 導 案

6 年 2 組 指 導 者 原 田 勝

単 元 器 械 運 動 (マ ッ ト 運 動)

1 本単元で子供が創出と受容、転移を行う各教科等の本質（見方・考え方）

運動感覚に着目すること

2 本単元について

本学級の子供たちは、体の動きを高める運動の学習において、体力の必要性や運動の行い方を理解し、工夫しながら体の柔らかさや巧みな動きを高めるための運動に取り組んできた。このような学びをしてきた子供たちが、技の行い方を理解し、技を身に付ける楽しさを味わいながらマット運動の学習に取り組む。このことは、マット運動の行い方を理解し、意欲的に運動に取り組もうとする姿につながるであろう。

本単元は、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本技や発展技に取り組むマット運動の学習である。子供たちは、これまで身に付けた動きを基に、マット運動に取り組むであろう。しかし、経験不足により運動の行い方が分からず、意欲的に取り組むことができない子供が見られる。そこで、回転や支持、逆さといった日常生活では経験できない運動感覚に着目することを大切にしたい。なぜなら、運動感覚を言語化することで、技の行い方を理解することにつながるからである。そうすることで、様々な技に挑戦しようという意欲をもち、技を身に付ける楽しさを味わうことができると考える。このような学びの中で、マット運動の行い方を理解し、意欲的に運動に取り組む子供の姿を期待したい。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子供の姿の実現を図る。

- 既習の技の行い方を比較するよう促す。そうすることで、運動感覚に着目することができるようにする。【創】
- 毎時間の終末では、できるようになったことと、できるようになった理由について振り返るよう促す。そうすることで、運動感覚に着目することのよさに気付くことができるようにする。【受】
- できるようになった技を基に、新たな技に挑戦する場を設定する。そうすることで、運動感覚に着目しながら運動に取り組むことができるようにする。【転】

3 本単元の目標

- マット運動の行い方について理解し、自己の能力に適した技に取り組むことができるようにする。
- 運動感覚に着目することのよさを実感し、運動の行い方を理解しながら、意欲的に運動に取り組むことができるようにする。

4 本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○ マット運動の行い方を理解し、回転系や巧技系の技に取り組んでいる。	○ 自己の能力に適した課題の解決の仕方を考え、考えたことを仲間に伝えている。	○ マット運動の楽しさを味わい、意欲的にマット運動に取り組もうとしている。

5 指導計画（全 6 時間）


第 1 次 回転系と巧技系の技に取り組む（4 時間）【本時 4 / 4】

第 2 次 選んだ技を組み合わせて、演技をつくる（2 時間）

6 本時案 【令和4年10月22日 10:20~11:05 体育館】

(1) ねらい 回転系や巧技系の技に取り組むことをとおして、運動感覚に着目し、自己の能力に適した課題の解決に向けて運動することができるようにする。

(2) 学習過程 ※一重下線は創出、二重下線は受容、破線は転移に対応する子供の意識

学習活動・学習内容	子供の意識	○教師の支援
<p>1 サーキット運動を行う。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動感覚に着目すること <p>2 巧技系と回転系の技に取り組む。(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巧技系と回転系の技に取り組むこと ・自己の能力に応じた課題の解決 ・運動感覚に着目すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえる倒立は体をまっすぐにして腕で体重を支えよう。 ・前よりもバランスが取れてきたよ。 ・棒転がりは、手足だけでなくお腹と背中にも力を入れると速く回れたよ。 ・前回と同じように補助倒立の練習をするのだね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>自分にはできるのかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>補助倒立は体をまっすぐしたり腕で支えたりすることが大切だったよ。</u> <p>A もっとバランスよく補助倒立できるようになりたいな。</p> <p>B 体をまっすぐにするためにはお腹に力を入れるとよかったな。</p> ・補助倒立がバランスよくできてきたよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>倒立ブリッジをしてみよう。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・補助倒立でしたことが生かせないかな。 <p>B <u>倒立の姿勢から、腕でしっかりと支えて、ゆっくりと足を着くとよいと思うよ。</u></p> ・私は、倒立がまだできないから、壁倒立で意識して練習してみよう。 <p>A 足から着くとブリッジの姿勢になることができたよ。</p> <p>B 背中にしっかりと力を入れよう。よし、しっかりと体を反らすことができていますよ。</p>	<p>○前時の学習で気付いた技のポイントについて振り返るよう促す。そうすることで、運動感覚に着目しながら、運動に取り組んでいたことに気付くことができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【受】</p> <p>○身に付けた技を基に、新たな技に挑戦する場を設定する。そうすることで、運動感覚に着目しながら運動に取り組むことができるようにする</p> <p style="text-align: right;">【転】</p> <p>○できるようになったことと、できるようになった理由について振り返るよう促す。そうすることで、運動感覚に着目することのよさに気付くことができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【受】</p>
<p>3 本時の振り返りを行う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の動きを高める楽しさ ・運動感覚に着目することのよさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助倒立は、腕で体を支えたり、お腹に力を入れたりしたらバランスよくできたな。 <p>A 腕でしっかりと支えることから始めたら、倒立ブリッジもうまくできたよ。</p> ・<u>腕で支えることは、マット運動の色々な技で大切なことだね。</u>	

7 創る科における子供の学びと本単元との関連

本単元では、単元をとおして問題を見出す力を発揮していく。創る科の学習をとおして、望ましい状態と現状を比べたズレを問題として捉えることを学習してきた。マット運動において、新しい技を身に付けるためには、今の自分にとって必要なことは何かを見出す必要がある。創る科の学習と関連付けることで、どのように体を動かせば技ができるようになるかを考え、そのためにどのように体を動かせばよいかを自ら考えることができるようになることをねらって指導に当たる。